



定期総会・3周年記念講演会



開会挨拶をする山田代表

2月5日、広島平和資料館（広島市中区）のメモリアルホールで反貧困ネットワーク広島の定期総会・3周年記念講演会を開催。山田代表の開会挨拶につづいて秋田事務局長から、2011年度の活動報告・会計報告、2012年度の活動方針案・予算案の提案があり、いずれも満場一致承認されました。

活動方針としては、「まちかど生活相談会」などの救済活動、緊急一時宿泊所（シェルター）の運営（現在8室）、孤立化対策としての「ほっとサロン」の運営など昨年度から続いている活動のほかに、今年は全国的に展開される第2回「反貧困全国キャラバン」に参加します。

宇都宮健児さんの記念講演（報告）

定期総会につづいて、反貧困ネットワーク代表・宇都宮健児さんを講師とする3周年記念講演会があった。講演は、昨年3月11日に起きた東日本大震災と福島第一原発の事故話から始められた。使用済み核燃料の最終処分場の問題が片付いていないこと、被ばく労働の現場で働いているのは、その多くが下請けの労働者であり、ひどい中間搾取が行なわれていること、手配師に連れて来られる人もいること、原発は、このような被ばく労働が無ければ成り立たないこと、原発を推進して来た人間が誰も責任をとっていないことなどを再確認させられるとともに、被害と向き合う反原発・脱原発運動でなければならないという言葉が心に残った。

また、今まで貧困状態ではなかったのに、財産を失って貧困状態に陥った人たちがたくさんいること、母親と子どもは避難し、父親は仕事先、祖父母は行政機能のあるところへと一家離散状態であるという生々しい現場の話もあった。

そして、経済大国と言われるアメリカや日本でも貧困や格差が広がっている、2009年の衆院選で政権が交代し、反貧困ネットワークの提案により貧困率を調査するまで日本政府は貧困と向き合って来なかった、ただ調査するだけではなく5年なら5年かけて貧困率をどれだけ削減するかではないか、と指摘した。

最後に、グレーゾーン金利などクレサラ問題を解決するのに30年かかった、貧困の問題を解決するにも腰を据えてかからなければならない、反貧困ネットワークや年越し派遣村などの取り組みは労働運動と市民運動との協力、そしてフラットな人間関係により成り立っている、同質の集団の集まりは和にしかならないが、異質の集団の集まりは積になる、従来の枠を越え、運動を広げて行くことが貧困問題を解決する力になると訴え、締め括った。(D)



「スクラムユニオン・ひろしま」です

加入団体の紹介

スクラムユニオン・ひろしま 委員長 土屋信三

スクラムユニオン・ひろしまの前身は、広島市資源選別センターのひとつである西部リサイクルプラザで結成された労働組合です。1995年の結成当時は、数名から始まった組合活動でしたが、さまざまな闘争と試練をくぐり抜け、組合員が30名になろうとしたとき、組合が存続できるかどうかという危機に直面しました。2001年に入札した事業主は組合をつぶすために組合員と組合員と疑われた労働者全員を継続雇用拒否としました。われわれは自らの怒りと正義を貫くために、ピケットストライキを決行しました。

この時の様子は、テレビや新聞で大々的に報道され、われわれは多くの励ましと支援を受けました。この時から、地域の労働者からの相談や支援要請が相次ぐようになり、われわれは地域ユニオンとして活動していくようになりました。

スクラムユニオン・ひろしまとして今年第11回目の定期大会＝結成10周年を迎えることとなります。リーマンショック以降、大量の「派遣切り」が行われ、労働者は職を失い、住まいも失い、本当に路上に放り出されました。今なお、多くの非正規雇用労働者が明日をも知れぬ不安を抱え、精一杯の生活を過ごしています。非正規雇用労働者は1700万人を超えたといわれています。

このような非正規雇用労働者を組織し、中小企業未組織労働者を組織し、言葉の真の意味で労働者相互の階級的な団結を作り上げたいと考えています。働いても食べていけない社会は異常です。労働者の権利を守り、人間らしい生活を送っていくことのできる社会をめざして奮闘しています。その一つとして反貧困ネットワーク広島に参加し、主に労働相談に乗って労働組合として問題の解決を図る努力をしています。



社会福祉士をご存知ですか？

専門職の紹介

広島県社会福祉士会 ホームレス支援委員会 鈴木千賀子

社会福祉士は、昭和62年に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」で位置づけられた、社会福祉業務に携わる人の国家資格です。法では、「社会福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを業とする者をいう」とあります。

社会福祉士が居る職場は、生活保護担当部署、児童相談所、地域包括支援センター、病院（MSW等）、社会福祉施設、社会福祉協議会、教育委員会（スクールソーシャルワーカー）、刑務所、地域定着支援センター・・・と多岐にわたります。成年後見業務等に携わる社会福祉士は独立開業している人もいます。仕事を休んで参加することが難しく、「まちかど生活相談会」にはあまり参加できていませんが、社会福祉士の得意分野としては、相談者のおかれている状況や相談したい主訴を根気よく引き出すことや、地域の社会資源とのつなぎ、相談者の「出番づくり」などでしょうか。他の専門職とペアで相談対応できることで、相談者理解と問題解決力がより高まると思われます。

ちなみにホームレス支援委員会では、広島市内でくつろぎ入浴サービス・シェルター運営・昼食相談会、福山で“金曜喫茶”、広島・呉・福山で夜回り活動に参加、などの活動をしています。これらの活動に参加する社会福祉士があまり増えていないのが悩みです。

私は「ほっとサロン」で救われました Aさん(50歳)のお話

私は、昭和55年に岡山の総社市の高校を卒業と同時に、広島にあったマツダに就職しました。以来23年間、車の部品の製造に従事しました。ところが、父親が突然亡くなり、年老いた母親の面倒をみるつもりで、マツダを退職し、総社市に帰ってきました。しかし、そこではなかなか自分にあう仕事無く、再び広島に出てきました。そして、派遣社員として、以前のように車の部品の製造する会社を転々としていました。ところが、昨年3月11日の東日本大震災で、車の関係の仕事が全くなくなりました。やっとの思いで食品加工会社の仕事があったので、アパートを引き払って広島県三次市に転居しました。しかし、その仕事もすぐにピークが過ぎて、段々仕事がなくなってきたのです。時給950円、月12万円～13万円しかありません。それでも働かないと喰っていけないので、じっと我慢して働いていました。

夏の暑い最中、空調がきかず40～50度の中での仕事に体力的にもたず、とうとうやめてしまいました。すぐに次の会社を紹介してくれたのですが、8月の終わりに風邪をひいて2日ほど休みました。3日目に出勤すると、「あなたは必要ない」と、解雇されてしまいました。寮も追い出されました。それから、いざという時のために常にもっていたカセットコンロとカップ麺で食い繋いでいたところ、ある日、夜回りの会の人から反貧困の「まちかど相談会」のことを知り相談に行きました。

おかげでシェルターに入らせてもらいました。ところが、シェルターに入った時から孤立感に襲われました。今までは、路上生活をしながらも、気軽に話し合う「仲間(?)」がいたのですが、アパートが決まり、一人ぼっちになったころからが大変でした。寂しさを酒で誤魔化すようになったのです。昼間から飲んでいるものですから、ケースワーカーから「また飲んで」と注意されたこともありました。

一度、シェルターにいるときに「ほっとサロン」を覗いたことがありました。しかし、高齢者が多く、皆さんには悪いですが、「自分はそこまで落ちないぞ」という、変なプライド(?)のようなものがあって、それ以来行かなくなりました。

アパートの部屋でウジウジしていたある日、まちかど相談会の手伝いに行きました。その時、この前ほっとサロンで見かけた人が数人いて、「ああ、あの人たちも頑張っているんだ」と、失礼ですが初めて「見直した」という気持ちになりました。このことがきっかけで再びほっとサロンに行くようになったのです。以来、気持ちも吹っ切れて、このたび、ほっとサロンの運営委員を引き受けることになりました。

～どのように聴き、どのように気持ちを受け止めることが心のケアにつながるか～

傾聴講座を聞いて

「広島いのちの電話」の立上げから、理事や相談員として長年関わってこられ、また、臨床心理士として相談室も開かれている、樋口啓子さんを講師にお招きして開催された勉強会の報告をいたします。

「傾聴」とは、ただ、相談者の言っていることを聞くのではなく、相談者が一番言わんとすることは何か、本当に訴えたいことは何なのかを理解することであるとのことです。どんなに打ちひしがれていたとしても、解決する力を一番持っているのは本人であり、本人の自然治癒力や成長力を信頼し、「傾聴」することで、もう一度生きてみようと思ってもらえるとのことでした。

「あいづち」や「指示(サポート)」、「繰り返し」、「質問」、「明確化」といった技法を使いながら、相談者の気持ちを「受容」し、また、相談者と同じように「共感」を行い、相談者が本当に言いたい根の根の部分を引き出されているとのことで、こちらが話すことよりも、相談者の思いをより深く聞き出すために、思いを「傾聴」するようにされているとのことでした。

反貧困ネット広島の相談会には、様々な悩みを抱えた方がいらっしゃいます。相談者本人のエンパワメントが必要と思われる相談も少なくありません。簡単に身に付けることはできないと思いますが、少しでも相談者の解決に役立つよう「傾聴」を意識していければと思います。(N)



ほっとサロン 便り

NPO 法人フードバンク広島・「あいあいねっと」のお世話になっています

「あいあいねっと」は可部にあります。年会費 5000 円を払って会員（法人に限る）になると、そこにある食べ物は、すべて無料でもらうことができます。毎週火曜日にもらいに行っています。カップ麺、コーヒー、菓子類…。

最近、生うどんやウィンナーがたくさんあるので、ほっとサロンで皆さんに食べてもらったり、持ち帰ってもらったりしています。カップ麺は特に、シェルターに入居される人に喜ばれます。(K)



ほっとサロンの食品保管棚

暮らしとこころの相談会を開催しました

3月13日(火)～14日(水) 広島駅南口エールエール地下広場



広島弁護士会、法テラス広島共催、反貧困ネットワーク広島、広島県精神保健福祉士協会、広島県医療ソーシャルワーカー協会、広島県労働者福祉協議会の協力により「暮らしとこころの相談会」を実施しました。

中国、毎日新聞やNHK、RCCテレビ、RCCラジオなどによる報道もあり、13日は面談117件、電話30件、合計147件、14日は面談136件、電話45件、合計181件、2日間合計328件(昨年末の相談会222件の1.5倍)の相談がありました。

シェルターの利用状況 ～寄付のお願い～

3月15日現在で、のべ280人の利用がありました。利用者の73%が男性ですが、女性の利用が4人に1人という高い割合になっていることに驚かされます。

～寄付のお願い～

生活保護申請された方の利用日数に応じて支給される住宅扶助費、厚生労働省「絆再生基金」からの助成金、広島県労働者福祉協議会からの助成金などにより運営していますが、シェルター8室の家賃、光熱費など固定経費が毎月30万円近く必要なため、常に財政的不安を抱えています。皆様のご支援をお願い致します。

(振込先口座) 下記のいずれかへお願いします

広島銀行 白島(はくしま)支店 普通 3235401 反貧困ネットワーク広島
郵便振替 01390-98338 加入者名 反貧困ネットワーク広島

10代	7人
20代	35人
30代	57人
40代	59人
50代	51人
60代	35人
70代	15人
80代	4人
不明	17人
合計	280人
この内、単身者が86%です。	

【総会のお知らせ】

NPO法人化後、第1回目の総会を下記要領で開催致します。

日時：5月20日(日曜日)午後2時から

場所：広島弁護士会館 5階(広島市中区上八丁堀2番66号)

会員の皆様には総会関係資料を事前に郵送いたしますので、ご出席の上、表決への参加をお願いします。参加できない方は必ず委任状のご提出をお願いします。



NPO 法人 反貧困ネットワーク広島
事務局 広島市中区東白島 14-15
NTTクレド白島ビル7階
広島総合法律会計事務所内
電話：082-227-8181 FAX：082-227-1200
相談専用電話 090-4890-1579 (10時～17時)

